

## プラセンタ治療に関する Q&A

### ・プラセンタとは何ですか？

プラセンタとは胎盤のことです。妊娠すると母体の子宮の中で胎盤は形成されます。胎児の体が成長するまで、胎盤は各種臓器（肺・肝臓・腎臓・脳下垂体・脾臓・小腸など）の働きを代行します。そのため胎盤は「万能臓器」とも呼ばれています。また胎盤は胎児を育てるための各種栄養や成長因子などの、多くの生理活性物質の産生や貯蔵を行う臓器です。

### ・プラセンタ注射はなぜいろいろな効果があるのですか？

プラセンタ注射には、多くのアミノ酸、核酸、塩基、ミネラルなどが含まれることは分かっていますが、残念ながら有効成分として特定の物質は同定されていません。現時点では、分かっている成分と未知の成分が複合的に作用していろいろな効果を発揮しているのではないかと考えられています。

### ・胎盤由来の製剤ですが、女性ホルモンがはいっているのですか？

ホルモンは全て分解されているため一切入っておりません。乳がん・子宮がん・子宮内膜症などに影響を及ぼすことはないといわれていますが、治療中の疾患があれば投与の可否について主治医とご相談ください。

### ・プラセンタはどのようにして投与しますか？

皮下または筋肉に注射します。血管内に投与する方法はアナフィラキシーショックを引き起こすリスクがあり、厚生労働省も認可していないため、当院では行っておりません。当院では皮下注射を行うメルスモンを準備しており、少しでも痛みが軽減されるように、細い針（ナノニードル 33G）を使用しております。

### ・皮下注射と筋肉注射の違いは何ですか？

一般的に、皮下注射は pH や浸透圧が細胞外液と同一で安全性の高い薬剤を投与する方法です。効果の発現は筋肉注射に比べて緩徐です。また皮下組織は軟らかいので痛みが少ないのも特徴です。

筋肉注射は皮下注射の約2倍の速度で吸収されるので、効果が発現するのが速いという特徴があります。また油性や混濁性の薬剤も投与することができ、皮下注射よりも多くの量を投与できます。筋組織に届くように深めに刺入するので痛みは皮下注射よりも強くなります。メルスモンは皮下注射のみ、ラエンネックは皮下注射と筋肉注射とを選択出来ます。

・ プラセンタ注射の適量と回数を教えてください。

プラセンタは2～3日かけてゆっくりと体内に吸収されて効果を発現すると言われているため、最初の2週間は週に2回程度、その後は週に1回程度の頻度で投与することをお勧め致します。

投与量は疾患によって異なりますが、1回の注射の量は1～10A（アンプル、1Aは2ml）であり、平均的な量は1回2～5Aです。ちなみ保険適用疾患である更年期障害や乳汁分泌不全や肝機能障害では1回1Aと決められています。

・ 副作用はありますか？

注射部位の疼痛、発赤等（5%以上）、その他にショック、悪寒、発熱、発疹等（0.1～5%未満）が起こることがあります。副作用が生じた場合は、医師にお申し出下さい。

・ プラセンタ注射は感染症の恐れはないのですか？

プラセンタ注射はヒト胎盤から抽出したエキスを原料とする生物製剤です。そのため、感染症を懸念される方もいらっしゃるかと思いますが、B型肝炎やC型肝炎、およびHIV等のウイルス感染のないことが確認されている、国内の満期正常分娩した女性から提供される胎盤を利用しているため、感染症のリスクは極めて低いと考えられています。さらに、製造過程においてプラセンタ中の血液は全て除去されるので、内容液に血液は混入していません。しかしながら、今後同定される可能性がある未知のウイルスに感染する危険性は現時点ではゼロではありません。

・ プラセンタ注射を打つとなぜ献血が出来ないのですか？

上記事項にも関連しますが、現時点ではプラセンタ注射によって変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD病）に感染するリスクがゼロとは言えないからです。万が一、vCJD病に感染された方が献血すると、その血液によって輸血を受ける多くの方へ感染を拡げてしまう可能性があるとの日本赤十字社による配慮のためです。しかし一方で、vCJD病はプリオンという特殊なタンパク質によって起こるため、vCJD病の発生を予防するために、酸による加水分解でプラセンタ中のタンパク質をアミノ酸に分解し、そして最終滅菌（121℃で30分間）を行うなど、感染症に対する万全な安全対策が講じられています。また、日本で通常生活している方がvCJD病にかかる危険性は1億人に0.1～0.9人であります。さらに、狂牛病が流行した時期に、流行があった地域への海外渡航歴がないことを確認し、肝炎やエイズウイルスの感染がないことが証明されている国内の満期正常分娩した女性の胎盤を使用していることを考えると、vCJD病に感染するリスクはほぼ0%に近いと考えられています。

・ プラセンタと一緒に併用出来ない薬や、併用して行ってはいけない治療はありますか？

特にありません。ただし、ホルモン感受性の高いがんの治療を受けている方は、プラセンタ注射を行うかどうかに関しては主治医にご相談ください。

プラセンタ注射は男性も受けることができますか？

男性も女性同様に接種することができます。男性更年期症状や疲労・倦怠感などの症状の改善が期待できます。

・ プラセンタ注射を始めましたが効果がありません。

効果を実感出来ない場合は、量や回数を調整することによって効果が現れる場合があるので担当医にご相談ください。ただし量や回数を調節しても効果が感じられない場合は、6か月～1年程度を目処にして中止を検討してください。